

緑のカーテン育て方講習会



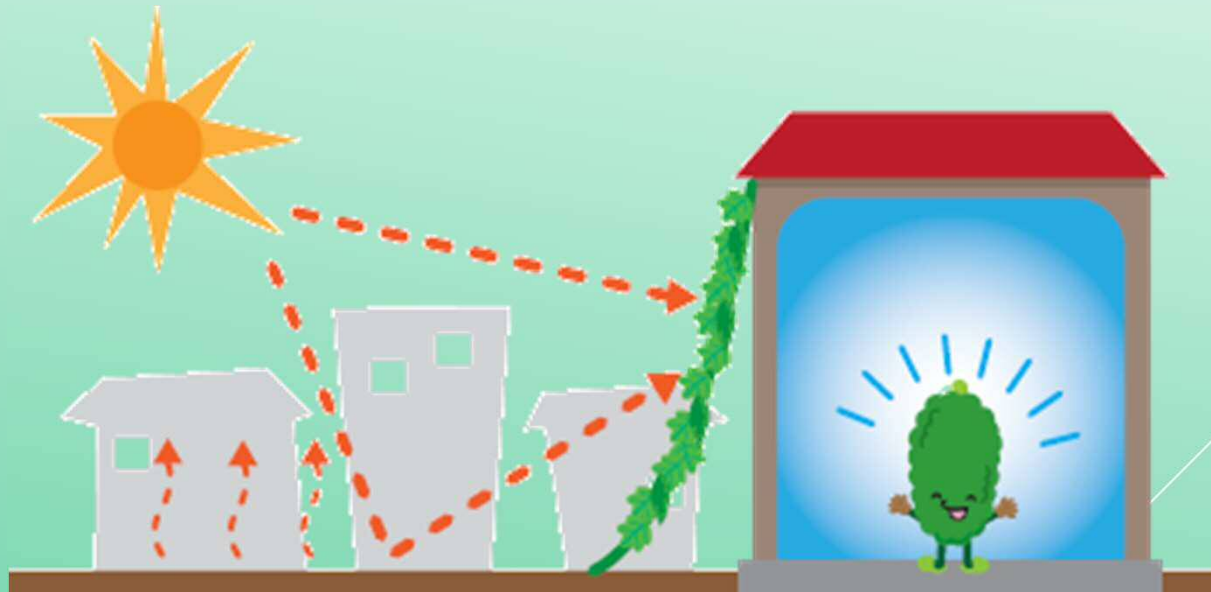
富山市 環境部環境政策課

画像：環境省ホームページより引用

緑のカーテンの効果

(1) 窓からの日射の侵入を防ぐ

十分に葉が茂った緑のカーテンは、日射しの熱エネルギーの約80%をカットする遮蔽効果があります。窓から入る直射日光を遮るので、室内温度の上昇を抑えてくれます。ちなみに、すだれの遮蔽率が50~60%、高性能の遮蔽ガラスでも55%程度とされています。



緑のカーテンの効果

(2) 葉から蒸発する水分が周りの温度を下げる

植物が根から吸った水分を葉から蒸発させ、周りの熱を奪います。さらに、その水蒸気を含んでいる「涼風」を室内に取り込めば、エアコンなど冷房機器の使用を抑えることができ省エネになります。

じょう さん さ よう
蒸散作用!



緑のカーテンの効果

(3) 家の周囲の表面温度を抑える

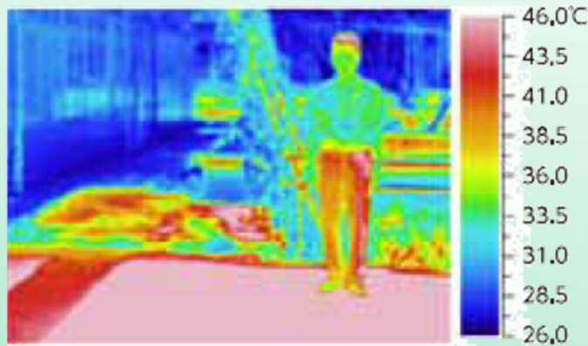
強い日射しで表面温度が高くなった窓付近の地面や壁、エアコンの室外機などから熱が放出されるのも暑さの原因です。この放射熱により、室温以上に体感温度が上昇し、さらに暑さを感じることとなります。そのため、緑のカーテンの張り方を工夫して壁や地面も日射しから遮ることで、放射熱の発生と侵入を効果的に抑えることができます。

放射熱とは：物体から物体に電磁波のかたちで伝わる熱のこと。

緑のカーテンの効果

日なた

頭への直射日光や地面からの照り返しにより、表面温度が約45℃を示しています。



日かげ

緑のカーテンにより、壁、ガラス面への直射日光を遮ることと地面の放射熱を緩和することで、体感的に涼しく感じることがわかります。



緑のカーテンに適した植物

<アサガオ>

大きく円錐の形の花は、赤・青・紫などがあります。咲き始めると色鮮やかな花を次々咲かせ長く楽しめます。

<ゴーヤ>

ゴーヤ、ニガウリ、ツルレイシとも呼ばれ沖縄料理でも有名なウリ科の野菜。実には苦味があって夏バテに効くと言われています。

<ヘチマ>

ウリ科の一年草。夏から秋、黄色い雄花と雌花を開かせ、濃緑色の実がなります。

<フウセンカズラ>

ムクロジ科のつる性の多年草。花の後に紙風船のようにふくらんだ果実がたくさんなります。

<ヒョウタン>

茎を長く伸ばし、巻きひげで他物に絡んで伸びます。白い花を開かせ、果実は中間がくびれて上下がふくらんだ形をし、熟すと果皮が堅くなります。

緑のカーテンの育て方（アサガオ・ゴーヤ）

<用意するもの>

○種をまくとき

培養土

鉢底石・軽石

肥料

プランター

○その他

ジョウロ、スコップ

○ネットを張るとき

園芸ネット

園芸支柱

ロープ、ひも

くい、アンカー、ブロック



緑のカーテンの育て方（アサガオ・ゴーヤ）

<アサガオの栽培スケジュール>



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	種まき					
	苗の植え付け					
	間引き・ネット張り					
			摘芯・誘引			
				開花		
				追肥（適宜）		
					種の収穫	片付け
		水やり（適宜）		水やり（たっぷり）		

<ゴーヤの栽培スケジュール>



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	種まき					
	苗の植え付け					
	間引き・ネット張り					
		摘芯・誘引				
			開花			
			追肥（適宜）			
				収穫		片付け
	水やり（適量）		水やり（たっぷり）			

緑のカーテンの育て方（アサガオ・ゴーヤ）

（１）土を準備

プランターに植える場合は、大きめで深さが30cmくらいあるものがおすすめです。底に、軽石または鉢底石を3cmくらい敷き詰めてください。（底の穴が大きい場合は、軽石や土がもれないように網でふさいでください）。その上に培養土と肥料を混ぜたものを、プランターのふちから2~3cm低くなるように入れてください。元肥入りの野菜用の培養土を利用すると便利です。



（２）種を準備

種の外皮は固く水が浸透しにくいので、水に一晩浸しておきます。また、水に浮きやすいので、ティッシュペーパーなどをかぶせると効果的です。



アサガオ：5月中旬～下旬ごろ　ゴーヤ：4月中旬～6月中旬ごろ

（３）ポットに植える

最初にポットで発芽させ、元気の良いものを選んでプランターに植え替える方法があります。種を土の上に置いて土を1cmほどかぶせてから水をあげましょう。



緑のカーテンの育て方（アサガオ・ゴーヤ）

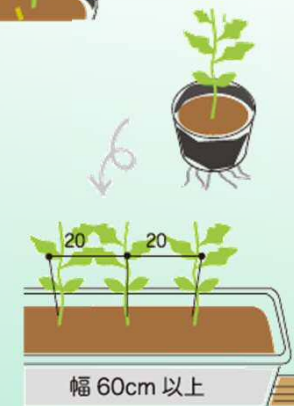
（４）間引き

芽が出て本葉が2～3枚になったら、元気のないものを間引きます。根が傷むので引き抜かずに根元をカットしましょう。



（５）プランターに移す

ポットの底から根が出てきたら移し時です。根を傷つけないように土ごとプランターに植え替えます。水を十分に与えてください。



（６）ネットを張る

生育が進んできたら、ネットや支柱を準備し、くいやレンガ、ベランダの手すりなどにしっかり固定してください。

<固定方法の例>



【上】

- ①壁や柱にフックで固定
- ②サッシ枠にすだれ用金具などを取り付け固定
- その他：2階のベランダの柵や雨どいへ固定

【下】

- ①ブロックなどの重いものに固定
- ②プランターに固定
- その他：くいや（アンカー）に固定

緑のカーテンの育て方（アサガオ・ゴーヤ）

（7）摘芯・誘引

本葉が8～9枚になった頃、5～6枚目ぐらいで切ってください（摘芯といいます）。こうすることで脇芽（子づる、孫づる）が元気に成長し、面を作ります。

成長初期には、ネットにつるがうまく絡むように誘引してあげます。子づるや孫づるは細くて柔らかいので丁寧に広げるようにネットに絡めます。



（8）水やり

暑くなり葉がたくさん茂ると葉から蒸散する水分も多くなり、地中の水分が不足がちになります。特にプランターでは、梅雨明け以降が要注意です。早朝の涼しい内に、プランターの底からしみ出るくらいの水をあげてください。

日中、地面が熱くなっている場合は、地中でお湯になって根の先端が傷んでしまうので、水やりを避けましょう。汲み置きしていた水、ホースの中に溜まっていた水は、日光で温まっているので避けて、冷たい水をたっぷりあげてください。

緑のカーテンの育て方（アサガオ・ゴーヤ）

（9）防虫する

市販の植物保護液、活力剤が最適です。

（10）追肥

アサガオ・・・つぼみが成るまで必要に応じ、栄養分を補給するために肥料をあげましょう。

ゴーヤ・・・固形の化成肥料を花が咲いて結実の頃から1カ月に一回与えましょう。

（11）収穫（ゴーヤ）

実が緑のうちに収穫して料理しましょう。目安は開花後15～20日です。収穫しないと次第に実が黄色くなってきてはじけるように裂けてきます。種を収穫する場合は実をネットで覆い、実が裂けてくるのを待ちます。

緑のカーテンの育て方（アサガオ・ゴーヤ）

（12）片付け

全体的に枯れて葉が黄色くなってきたら、片付け時です。

<ネットとつる>

ネットをおろしてからつるの取り外しを行ってください。

<土>

ふるいなどで根を取り除いて、腐葉土や堆肥、土壌改良（リサイクル土）を混ぜることで、来年度も再利用できます。

生育途中で植物に病気が発生した場合は、熱湯や日光で消毒することをおすすめします。

緑のカーテンの作り方のポイント

(1) 肥料のあげ方

固形の化成肥料は根元から離して、指で凹みを作って入れ、土を軽くかぶせます。根元に近いと濃い肥料成分のために根が傷み生育が悪くなります。

(2) 肥料の種類と効力

植物の三大栄養素には、葉を大きく育てる葉肥の窒素、実肥のリン酸、そして根肥のカリウムがあります。

<成長の三大栄養素>

N 窒素	茎や葉を茂らせる	追肥で多めに 葉肥（はごえ）
P リン	花やツボミ、実の生育を促します	最初多めに 実肥（みごえ）
K カリウム	根の育成を促します	追肥で多めに 根肥（ねごえ）
その他 石灰 マグネシウム	カルシウムです 細胞壁を強くします 葉緑素を作り新陳代謝を促します	

(3) 害虫

アブラムシ、ハダニ、オンシツコナジラミ、花モノによくスリップスがつきます。

(4) 病気

【うどんこ病】葉の表面がうどん粉をふりかけたように白くなる病気です。

【灰色かび】葉や実に灰色のカビが生え腐ってしまう病気です。

【つる割病】下葉よりしおれ始め、茎に割れ目ができる病気です。

緑のカーテンで涼しく暮らすアイデア！

＜緑被率70%を目指そう＞

緑のカーテンで涼しく過ごすために大切なのが、緑被率を高めることです。理想的なのは、半分以上が葉で覆われている緑被率70%以上の状態。葉がしっかり覆い茂ることで、直射日光が遮られることにもつながります。

緑被率70%を目指して成長を促すためには、日ごろお手入れが欠かせませんが、水、肥料を適切に与える以外には、摘芯とつるの誘引が大切です。



＜よしず・すだれを併用しよう＞

外から家の中が丸見えにはならず涼しく過ごせるだけでなく、気温が上昇し暑くなる梅雨明けまでに日かげを作るというメリットがあります。窓を覆い隠すようによしず、すだれ、緑のカーテンを設置することで、夏場はとても気持ちよく過ごせます。



すだれ



よしず